

今回のエジプト招待プログラムでは、多くの観光地を訪れました。カイロ考古学博物館では、教科書やテレビで見たことのある沢山のミイラや像が収められており、古代エジプトを体験するかのように楽しくエジプトの歴史を学びました。「切りかけのオベリスク」では、古代エジプトの建築技術について学びました。たくさんの神殿も見学し、それぞれに見られる共通した建築様式や祭られている神とその神話についての説明を聞くこともできました。また、この間クルーズ船に滞在し、ナイル川の対岸に見えるエジプトの街並みを眺め、現地の人々の暮らしぶりを垣間見ながら、日本との違いについて考えるきっかけにもなりました。特に、船着き場で見かけた物売りの少年の姿には衝撃を受けました。テロやデモの影響が大きく、安定した仕事を得ることが簡単でないため、このような子供が多くいるそうです。世界にはこんな子供たちが沢山いる、と分かってはいても、他人事に感じていた現実を突き付けられた気分でした。

プログラム後半では、「王家の谷」を見学し、実際に墓の中に入ってその雰囲気を感じました。墓の通路はひんやりとしていて、本当に冥界に誘われているようで少し怖かったです。その日の夜には最終日に観光予定だったギザの近くでテロが起きました。空港もバスも警備が厳重になり、日本では感じることもない緊迫した雰囲気でした。日本という国の治安の良さを痛感し、世界には解決すべき課題がまだまだ山積みなのだ、と思いました。



その一方で、私はエジプトの人たちの人柄の良さに感動もしました。ある市場では、日本語で私達に話しかけてくれましたし、「日本が好きだ」と言ってくれる人も沢山いました。特に、一週間私達を案内して下さったガイドさんは日本語が堪能で、私達のどんな質問でも日本語で丁寧に答えてくれました。別れ際には、「必ずまた会いましょう」と、私達と約束してくれました。

このプログラムを通して、私は多くのことを得ました。多くの仲間、豪雨の日の体験の共有、人をもてなす心、エジプトの悠久の歴史に思いをはせること、日本とは全く違う食事・生活様式、そして美しい景色などです。しかし私は何よりも大切だと気付いたことは、「自ら学ぼうとすること」です。小学校から高校までずっと言われ続けてきた言葉ですが、今回の経験を通して私はこの言葉の本当の意味が少しわかったように思います。これは、「誰かに言われなくても勉強する」という意味ではなく、「少しでも多くのことを自分のものにする」ということなのだと思います。

エジプトに到着してすぐの頃は、ただ日本との違いに驚き、人生で初めての外国を楽しんでいました。しかし、段々とそれでは物足りなくなりました。例えばバスから街並みを眺めている時でも、「あ、変わった服だな」「日本のトラックが走っているな」と思うだけでなく、エジプトの服装や建築様式に注意すれば世界史・地理で習った気候帯による生活の違い、宗教上の慣習についての知識やエジプトの経済とつながってきます。

また、現地の方との交流は買い物が主でしたが、ただ価格交渉をするだけなら「〇ドル」「ノー、アイトント」さえ話せば値引きはできます。しかし、英語を使いコミュニケーションを図ろうとすれば、お互いに気持ちの良い交渉ができるだけでなく、観光だけでは分からない現地の知識が手に入ることもあります。これこそが英語を使う楽しさだと思いました。

どんなものでも、どんな場面でも自分の学びに生かそうとすることで、今回のような体験が大きな意味を持つのだと思います。今回の旅で自分の中の単なる多くの「情報」が自分の力になる「知識」にレベルアップしたと感じました。私は今回のプログラムによって得たことを日常生活の中で十分に活かし、そしていろんな人に伝えていきたいと思っています。そしていつか、このような素晴らしい体験を私たちにさせて下さったエジプトに何か恩返しをしたいと思っています。

